日本地球電気磁気学会会報（第25号）

1966年12月23日

日本地球電気磁気学会

事務所　東京都文京区弥生２丁目11番16号
東京大学理学部地球物理学教室内
電話　(812) 2111　内線 4321
振替　東京　４８６０番

第40回総会並びに講演会の報告

かねてお報せしてありました通り、第40回総会並びに講演会は、電波研究所平磯支所の方々のお世話により、去る10月19日から22日まで４日間にわたり茨城県那珂郡湊市「船員会館」（第一会場）および隣接する大洗町「かもめ荘」（第二会場）に於て開催され、予定通り無事終了致しました。簡単にその模様を御報告致します。

第３日（21日）朝、激しい俄か雨があった他は連日好天に恵まれ、文字通り澄みきった青空と青光りする大平洋を左手の窓越しに眺めながら、110の研究発表と２つの特別講演とに熱心に耳を傾け又盛んな討論を続けました。特別講演は第３日の総会に先だち、何れも本会々員の

米沢利之氏　最近の電離層研究における二三のトピックス

A. Cox 氏　Geomagnetism Reversal

のお話がありました。

続いて総会は、北村運営委員が議長となり新野賢爾大会委員長の歓迎の挨拶の後、田中館賞受賞者が発表され

第40号田中館賞は　行武　毅氏（東大震研）の

「地磁気の西方移動について」の論文に対して同氏に授与されました。

又今年度から新たに設けられた長谷川記念杯の初めての贈呈式を行い

長谷川万吉氏　及び　永田武氏

の両氏に、その偉大な功労をたたえて記念杯を贈呈しました。両氏からは夫々謝辞が述べられました。

委員長はその挨拶の中で、若い人の発展が多いことは心強い限りであるが、

話すだけでなく論文として書いて広く発展することが最終仕上げであるからそこまで努力するよう要望されました。又本学会の活動も広範なものになったが、それに伴って事務、財政の上に困難な問題が深刻化しつつあり、若い人々も大きな関心を以て協力してほしいと要望されました。

永田武氏は委員長の求めにより、学界の国際的情勢につて説明されました。特に1968年には、日本に於て ① COSPAR ② IAGA と IAMAP の joint Symposium（以上確定）と、③ SCAR（Scientific Committee on Antarctic Research）（未確定）とが開かれる予定であるとのことです。

名誉委員長が行武氏に祝辞を述べられました。

尚、学生会員に関して会則改正の動議が出されましたが、会員総数334名中、出席87名で規定の1/3に達していませんので、正式に議題として取扱うことは見送りとなりましたが、非公式に二三の人からこの問題について意見が述べられました。結局この問題は次の機会に更めて議論しようということになりました。

次の学会（1967年春）は東京に於て国土地理院のお世話で開くことを決めました。

最後に前田憲一氏は会員を代表して、この講演会及び総会の一切のお世話をして下さった新野大会委員長及び電波観測所平磯支所の方々に感謝の辞を述べ、この総会を閉ぢました。

同日夜は春日ホテルに於て懇親会が開かれ、珍らしい郷土民謡とおどりの御披露があり、なごやかに時の経つのを忘れて過しました。

この四日間には色々と印象に残ることがあります。第3日に特別講演の前に一同貸切バスにて電波観測所平磯支所を訪ね、所内をくまなく見学させていただいたこと、第4日には講演終了後やはり貸切バスにて鹿島神宮、水郷のエクスカーションに案内していただいたこと、那珂湊市が道路に「歓迎日本地球電気磁気学会」の横断幕を張って歓迎して下さったこと、会場もなかなか洒落た建物ですが、眺めも素晴しく、そのベランダで食べたエビカツライスもはるかに値段以上のものであったこと等々。細い点まで誠に行届いたお世話をしていただいた平磯支所の皆様に更めて厚く御礼を申しあげる次第です。

国際学界情報

IQSY国際委員会が，1967年7月に総会を開いて解散し，その後は国際学術連合（ICSU）直轄の Interunion Committee on Solar-Terrestrial Physics ができて，太陽－地球現象や地球超高層大気研究の国際中心組織となる予定である（IUCSTP の委員長には米国の H. Friedman，幹事には英国の C.M. Minnis があたる予定）。

1967年に開かれる関係国際会議またはシンポジウムとしては，

6月13－16日	Conjugate phenomena シンポジウム 於 Boulder
7月15－16日	IQSY 国際委員会 総会 於 London
7月17－22日	Joint IQSY/COSPAR Symposium 於 London
7月24－29日	Tenth Meeting of COSPAR 於 London
9月18－21日	The Birkeland Symposium（故 Birkeland 教授生誕100年を記念して開く Symposium on Aurora and Magnetic Storms） 於 Oslo

9月24－10月7日 IAGA General Assembly 於 Basel

などが予定されている。IAGA 総会中には Symposium on Conjugate Point Experiment も開かれる。またIQSY会議では，IQSY 期間中の地磁気観測および研究結果を review する paper を永田教授が用意するよう依頼されている。

東大宇宙航空研の助手公募について

東京大学宇宙航空研究所より助手公募について下記の依頼状が当学会に参っておりますので会員各位にお報せ申上げます。

東京大学宇宙航空研究所

東大宇宙研第1926号の3.
昭和41日12月13日

地球電気・磁気学会　御中

東京大学宇宙航空研究所長

東京大学宇宙航空研究所の助手公募について（依頼）

拝啓　貴学会ますますご隆昌のことお喜び申し上げます。

さて、このたび当所において助手の公募を行なうことになりました。つきましては、別紙公募要項を同封いたしますので、ご繁忙中まことに恐宿に存じますが、貴学会の機関誌にご掲載方よろしくお取り計らい願います。

なお、掲載に要する費用は無償にてお取り扱い下さいますよう併せてお願い申し上げます。　敬　具

助手公募の通知

東京大学宇宙航空研究所の助手を公募します。希望者の応募および適任者の推薦をお願いいたします。

1．専門分野および公募予定人員数：
電波宇宙科学　　助手 1～2名

2．応募資格：
大学院修士課程修了またはそれと同等以上の学力をもつもの。

3．提出書類：
(1) 応募の場合：履歴書，研究歴（主要論文目録），研究計画。
本人について意見を述べ得る人2人以上（住所・氏名）
(2) 推薦の場合：履歴書，研究歴（主要論文目録），推薦状。

4．公募締切：昭和42年1月31日

5．あて先：東京都目黒区駒場856
東京大学宇宙航空研究所事務長
TEL（467）1111（代表）

6．決定方法：
東京大学宇宙航空研究所設立準備委員会専門委員会で選考し、宇宙航空研究所幹事会で審査決定します。

附 別紙の説明書をご参考にして下さい。

昭和41年12月

東京大学宇宙航空研究所
所長　高木　昇

説　明　書

東京大学宇宙航空研究所

1. 研究所の目的

宇宙航空研究所は、宇宙科学、宇宙工学および航空に関する学理およびその応用の総合研究を行なうため、共同利用研究所として、昭和39年4月1日、東京大学に附置された。

2. 研究所の規模

○研究部門（学部の講座相当）：
現在34部門であるが、年次計画による完成時は39部門となる予定である。
研究部門は原則として、教授1、助教授1、助手2、雇員2で構成されるが、研究室の構成は必ずしもこの部門構成にとらわれない。また、研究部門は運営の便宜上、暫定的に5つの研究部にまとめられている。

○敷地建物（附属施設を除く）：
敷　地　100,331,000 m²　（30,350坪）
建　物　延 24,833,169 m²　（7,512坪）

○予　算（人件費を除く）：
昭和41年度　約32億円

3. 研究所の現状

研究所は創設過程にあるため、東京大学総長を委員長とする設立準備委員会が設けられている。一方転換または振替による既存部門が研究所完成時における計画部門数の過半に達している現状から、教授会（教授、助教授で構成し、通常所員会と称している）も設けられており、研究所創設に関する重要事項は設立準備委員会と教授会で、それぞれ審議し、相互連けいして決定されているが、所内における定常事項で、その決定が所内に向って行なわれるものにあっては、教授会に委ねられている。また研究所の常務に属する軽易な事項を処理するために幹事会が、所長の諮問に応ずるために常置委員会が設けられており、さらに研究所の運営、合理化をはかるために、必要に応じ、各種の常置運営委員会と研究委員会が設けられている。
また、設立準備委員会の下に小委員会、その下に三つの専門委員会が置かれ、宇宙科学、宇宙工学、航空工学に関することは、それぞれの専門委員会で審議され、小委員会で調整される。設立準備委員会を含む各委員会には外部から多数の委員が参加している。

4. 公募する専門分野の内容

当研究所では、観測ロケットや科学衛星によって地球大気圏外の物理的諸現象を観測し、超高層大気ならびに宇宙空間に関する研究を行なっています。
今回募集する研究者は、上記宇宙科学の基礎となる理論および実験を中心のテーマとすることになります。

新入会員のお報らせ

会報 24 号以后現在までに当学会に新たに入会されました会員は下記の通りであります。（敬称略）

氏名	所属
山口　隆	名大空電研
澤浮　清	名大空電研
眞鍋　健一	福島大地学
竹内　一	理研
栗城　功	電波研
倉橋克典	名大空電研
C.A. Onwumechilli	University of Ibadan
N.D. Watkins	Florida State University
P.J. Wasilewski	University of Pittsburgh
R.A. Gallet	ITSA-ESSA, Boulder
J. Verhoogen	University of California
R.S. Coe	University of California
W.D. Parkinson	University of Tasmania
J.C. Gupta	Nat. Center Atmos. Res., Boulder.